

令和5年度 学力向上プラン

学校名 中央区立佃島小学校

学校の教育目標

- ・健康で 明るい子ども
- ・礼儀正しく 思いやりのある子ども
- ・よく考え すすんでものごとに取り組む子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- 基本的な学習習慣及び生活習慣を確立する自律力
- 他者を尊重し、自分の意見や考えを伝えることができる表現力
- 知識・技能を活用し課題の発見と解決に取り組もうとする力

令和5年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、第4，5，6学年の国語科全体の平均正答率が区の平均よりもやや下回っている。 ・特に「書くこと」の領域や「情報の扱い方に関する事項」の領域が目立って低い。 ・第4学年に関しては、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点も低い。	・情報と情報を関連付けたり活用したりする機会が少ない。 ・相手を意識し、自分の考えや意見を伝えるように書く経験が少ない。
算数・数学	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、第4，5，6学年の算数科全体の平均正答率が区の平均よりもやや低い。 ・問題文を読み取って答える問題については正答率が低い。 ・第5学年に関しては、図形の領域のポイントが低い。	・図形を求める公式を活用して課題に取り組むことが多いが、その公式が表す意味について表現する機会が少ない。 ・長さや重さ、広さを表す単位を理解していても、量感が身についていない。 ・日常の経験と結び付けて考える問題が弱い。
社 会	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、第4，5，6学年の社会科全体の平均正答率が区の平均よりも下回っている。 ・観点別に見ると「知識・技能」のポイントが3観点の中で一番低い。	・複数の資料を関連付けたり、複数の資料から必要なものを選んだりする活動が必要である。 ・日本の国土や世界の様子を知るために、地図帳を活用する機会が少ない。
理 科	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、第4，5，6学年の理科全体の平均正答率が区の平均よりもやや下回っている。 ・特に第4学年は「植物の育ち方」「光の性質」、第5学年は「ものの体積と温度」は、区の平均を下回っている	・体験や経験はしていても、知識として身につけていない。
英 語	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、第6学年の英語科全体の平均正答率が区の平均よりもやや上回っている。しかし、「主体的に取り組む態度」の観点及び「記述式」の解答形式においてやや下回っている。	・英語と日本語の発音の相違が積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を少なくしている。 ・言語やその背景にある文化について興味が乏しい。

体育・保健体育	「令和5年度運動能力、生活・運動習慣調査」において、測定種目別に見ると「上体起こし」・「20mシャトルラン」・「ソフトボール投げ」のポイントが低い傾向にある。加えて、男子は「50m走」も低い傾向がある。	・運動経験の差が運動技能の差につながっている。 ・授業内で、話し合い活動や、課題発見、解決をする授業展開を構成することが少ない。
---------	---	---

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	・自分の考えや意見の中心となるものを明確にすることや、読み手を意識した文章表現や文字制限などの条件に合わせて文章を書く活動を多く取り入れる。 ・いくつかの情報を関連付けながら読み取ったりわかったことを表現したりする活動を取り入れる。
	算数・数学	・図形を求める公式が表す意味を理解し、表現する活動を意図的に設定する。 ・具体的な日常の経験と結び付けたり、身近なものを測定したりし、量感が身につくような活動を多く取り入れる。
	社会	・複数の資料を関連付けたり、複数の資料から必要なものを選んだりする活動を多く取り入れる。 ・日本の国土や世界の様子を知るために、地図帳を積極的に活用する。
	理科	・生活体験をもとに実験結果の予想を立てたり、実験結果を全体で検証したりする活動を多く取り入れる。 ・理科支援員と連携して、予備実験を充実させる。
	英語	・「令和6年度学習力サポートテスト」において、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」の観点及び「記述式」の解答形式のポイントが区の平均を上回るようにする。
	体育・保健体育	・「令和6年度運動能力、生活・運動習慣調査」において、測定種目別に見ると「上体起こし」・「20mシャトルラン」・「ソフトボール投げ」のポイントが参加校の平均を上回るようにする。
②授業改善	【目標】 ・ICTを活用して、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実現をめざしていく。 ・ユニバーサルデザインを取り入れ、個別に支援が必要な児童に適した授業改善を行う。 ・教科担任制のもと、教える教科に専念した教材研究を行い、質の高い教科指導を行っていく。 【指標】 ・学力向上委員会を定期的に開催し、計画的かつ定期的な授業改善を行っていく。 ・学校評価教員アンケート「授業内容」に関する項目で肯定的評価の95%以上を目指す。 ・学校評価児童アンケート「授業内容」に関する項目において、肯定的評価の95%以上を目指す。 ・校内研究でのタブレット端末の効果的な使用方法の研究を通して、教員の授業におけるタブレット端末のICT機器活用力の向上を図る。	
③家庭との連携	【目標】 ・学校便り、学年便り及び各種アンケート等の配布物のデジタル化を行っていく。 ・月1回の学校公開を実施し、家庭、地域に本校の教育活動の理解を深めていく。 【指標】 ・学校評価保護者アンケート「保護者との連携」の項目において肯定的評価が90%以上を目指す。	
④体力向上	【目標】	

	・自ら進んで体を動かし、運動に親しむことができるような取組を行う。 ・他者の動きのよさを感じ、実践することで、運動への楽しさを実感できるようにする。 【指標】 ・学校評価児童アンケート「体力向上」の項目において、肯定的評価が80%以上を目指す。
--	--

【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	・ある程度の長さの自分の意見や考え、感想を書く活動を多く取り入れる。 ・自分の考えや意見の中心となるものを明確にすることや、読み手を意識した文章表現や文字制限などの条件に合わせて文章を書く活動を多く取り入れる。
算数・数学	・図形を求める公式が表す意味について表現する活動を意図的に設定する。 ・数直線を活用して数量関係を整理する活動を多く取り入れる。
社会	・複数の資料を関連付けたり、複数の資料から必要なものを選んだりする活動を多く取り入れる。 ・資料から読み取った事柄だけでなく、そこから考えられることを言葉にして表現する活動を多く取り入れる。 ・日本の国土や世界の様子を知るために、地図帳を積極的に活用する。
理科	・生活体験をもとに実験結果の予想を立てたり、実験結果を全体で検証したりする活動を多く取り入れる。 ・理科支援員と連携して、予備実験を充実させる。
英語	・積極的にコミュニケーションをとる活動を意図的に設定する。 ・言語やその背景にある文化について調べたり発表したりする活動を多く取り入れる。
体育・保健体育	・体づくり運動では、サーキット運動を多く取り入れて、体力の向上やものを操作する力を養う。